



東洋風と印度風の意匠が織りなす近代建築

## 芦屋仏教会館 国登録有形文化財へ



芦屋仏教会館は、丸紅商店初代社長・伊藤長兵衛氏が、開かれた仏教講座の道場とするべく、1927年に私財を投じ創設しました。

終戦直後には、一部が市立図書館として使われ、また1995年の阪神・淡路大震災では、被害は軽微でしたが震災復興に伴う土地区画整理事業区域のため、2003年に西へ約2.5m<sup>ひきや</sup>曳家工法で移築されました。

創設以来90年の歴史を歩みながら、設立当初の理念を継承し、日曜仏教講座・仏教布教講演会・コンサートなど地域社会に根差した活動が行われています。

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115

### 芦屋仏教会館の建築様式

設計者である片岡安氏は、伊藤長兵衛氏が信仰する仏教の根源である印度に原型を求め、近代建築との融合を試みました。内部は、大講堂（90席）とバルコニー席（30席）・集会室・研究室等があります。

正面玄関ファサードの装飾として、壁面に取り付けた片蓋（かたふた）柱や、先を尖らせた葱花（そうか）形の開口部、内部の講堂正面のお堂の多辨（たべん）形アーチ、蓮をモチーフにしたステンドグラスなどにその表現が見られます。

大講堂は、当時各地で建設されたバルコニー席のある公会堂を意識した設計で外部仕上げは当初、色モルタルスタッコ塗りでしたが、現在は吹き付けタイルとなっています。

設計者・片岡安（かたおか やすし）氏（1876年～1946年）

関西建築協会（現・日本建築協会）の初代理事長を務め、大阪中之島公会堂（1918年竣工・2002年国指定重要文化財に指定）など多くの名建築の設計・監理を行いました。

執筆：姉川昌雄氏（一級建築士・兵庫県ヘリテージマネージャー）



大講堂正面に奉安されているのは聖徳太子の御尊像



蓮をモチーフにしたステンドグラス



バルコニー席がある大講堂

### 広報あしや 12月15日号

2面・3面	行政情報	5面	文化・芸術の催し
	市からのお知らせ	6面	くらしの情報ガイド
4面	特集：市職員の給与・職員数などを公表します	7面	健康・保健/保健センターだより（予防・健康づくり）
		8面	わがまちトピックス